

霞城公園の 移り変わり

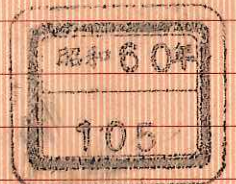
Campus®

NOTEBOOK

Campus notebooks contain the best ruled foolscap suitable for writing.

A 普通横罫

敬学会賞第三十九回入選作



6の2

名前 竹石雄二

日

程

No.

Date

-1-

回	研究指導日	内 容	指導者
1	4月24日 (水) 5校時	オリエンテーション	学級担任
2	5月8日 (水) 5校時	テーマ決定 研究計画を書く	学級担任
3	5月15日 (水) 5校時	テーマ方法 研究の指導	テーマ別指導者
4	6月12日 (水) 5校時	資料をさがし調べる	テーマ別指導者
5	6月25日 (火) 5校時	資料をさがし調べる	テーマ別指導者
6	7月10日 (水) 5校時	資料をさがし調べる	テーマ別指導者
7	7月17日 (水) 5校時	まとめの形式・ノートの 書き方の指導	学級担任
8	9月4日 (水) 5校時	研究内容を見てもら い清書する。	テーマ別指導者
9	9月25日 (水) 5校時	研究内容を見てもら い清書する。	学級担任
	9月30日 (月) 放課後まで	作品の切り分け ※指導者に渡す ※テーマ別審査	テーマ別指導者
	10月4日 (金)	学級担任へ渡す ※学級毎の審査	学級担任
	10月7日 (月)	※学年審査	各学年
	10月9日 (水) 3:30~	※総合審査	全職員
	10月11日 (金)	作品展示開始(佐瀬)	係
10	10月16日 (水)	研究発表会	全職員

目

次

1. 山形城のたん生
2. 江戸時代の山形城
3. 明治時代のか城公園
4. 大正時代のか城公園
5. 昭和初期のか城公園 (第二次世界大戦中)
6. 戦後から現在までのか城公園の移り変わり
7. 未来のか城公園の姿
8. 生まれ変わる霞城公園シリーズ
9. 国の史跡指定になる 三の丸跡

敬学会研究計画

6年2組 竹石雄二

研究題目 霞城公園の移り変わり 教科 社会

1. 研究をはじめたわけ

現在、市民のスポーツをする場所として活やくしている霞城公園の、昔と現在と未来の変わり方のちがいに興味を持ちました。

2. 調べたいこと(かじょう書きに、くわしく、予想も書いてみよう。)

調べたいこと	予 想
1. 山形城のたん生	
2. 戦争時代の霞城公園(第2次)	
3. 戦後の霞城公園	
4. 現在の霞城公園のやくわり	
5. 未来の霞城公園の姿	

6年2組 氏名 竹石雄二

[illegible][illegible]

1. 山形城のたん生

山形城は、斯波兼頼によって、延文二年(1357年)に築成されたと伝えられている。当時の山形城は、現在の二の丸跡(霞城公園)位の大きさといわれている。

斯波兼頼は清和源氏の流れで、足利尊氏とは同族であり、奥州管領の名族斯波家兼の二男であった。

兼頼の嫡子直家は最上殿と称され、その後代々は最上を氏とし、上山・中野・天童・東根・楯岡・長瀬・清水ほか最上・村山群内の要地に一族を配置して、山形とその周辺は古代から開発が進み、出羽内部の中心地。最上郡のくんががあり、山方郷とも称した。最上城・山形城の名前の由来でもある。

斯波氏は代々ここに居城し最上家をなつた。

最上家の栄華を築いたのは十一代義光である

義光が山形城を大きく三の丸まで増築した

時期は文禄元年(1592年)ころである。

整備した城は、本丸東西約143m南北約132m
二の丸は東西約441m南北約474m 三の丸
は東西約1480m南北約1881mもあった。

現在でいうと大手町、香澄町、城南町、城西町、
城北町、旅籠町などをかこう広さで本丸には
五層の天守閣は無かったらしいが天明七年(17
87年)写しの最上家中分限帳、の奥書には、本丸
は「平ぐら五つ、三階平ぐら角2つ、御門3つ」があった
と書かれている。山形城は平城としては全国有数
の大きさであった。三の丸の外には商人町や職人
町、百姓町と寺社の門前町を囲むように、下
級家臣の屋敷町をおいて、ほぼ今の山形の
町々が造られていった。今の小白川町、宮町、地蔵
町、諏訪町、小姓町、鉄砲町などは最上氏の

家臣町であった。

関ヶ原の戦いの際、徳川方についた最上家は上杉家の直江兼続に攻められた。兼続が山形の西にそびえる(富)神山に登り、見渡したところ山形城は霞(かすみ)に包まれ、見えなかった。

このため「霞ヶ城」とも呼ばれるようになった。

最上家は義光の時代に黄金期を迎え、しかし慶長十九年(1614年)義光が病死後、没落の一途をたどる。

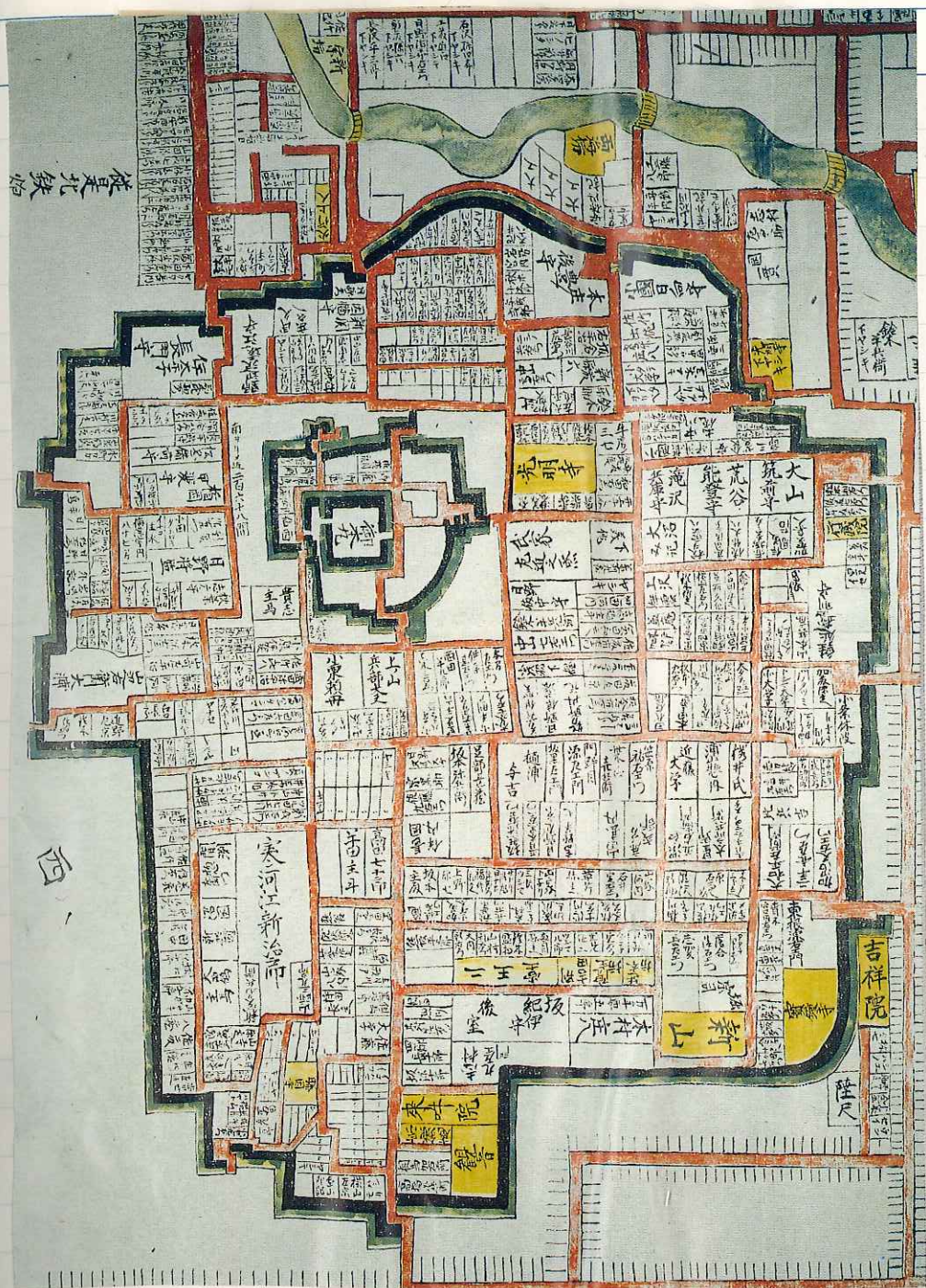
山形城は、35人のお殿様が君りんしおよそ513年間に在任した。

時代的に見ると次のように大別される。

南北朝 2人・室町 8人・桃山 1人・江戸 24人。

在任した家ごと別

最上氏 13代 266年 (57万石)	松平氏 1代 18年 (6万石)
島居氏 2代 15年 (24万石)	秋元氏 4代 79年 (6万石)
保科氏 1代 8年 (27万石)	幕府直轄 3年
幕府直轄 8カ月	水野氏 2代 24年 (5万石)
松平氏 1代 20年 (15万石)	最上氏が山形にとって一番
奥平氏 2代 17年 (9万石)	古い殿様で一番したわけて
堀田氏 1代 1年 (10万石)	いたのが特ちょうです。
松平氏 1代 6年 (10万石)	
松平氏 1代 8年 (10万石)	
堀田氏 4代 46年 (10万石)	



最上時代の城下絵図

(和合町、大場和平氏所蔵)



(最上氏の祖とされる)

期波兼頼像
(七日町光明寺所蔵)

慶長五年(1600年)の九月上杉方の謀将直江山城守のひきいる大軍を向かえ山形城主最上義光が決戦場、富神山に向かって進撃した姿で右手に持っているのは、鉄のしきぼうで「清和天皇末葉山形出羽守有髪僧義光」と書いて有ります。

慶長十九年(1614年)68才で山形城で没し、市内光ぜん寺にはほうむられ紀州の高野山に五輪供養塔が建てられてある。
『最上義光公勇戦の像』は昭和52年11月3日に建てられ。

2. 江戸時代の山形城

江戸時代前期の山形城は、鳥居忠政をはじめ保科正之など「東国の押さえ」として譜代大名の城地となっていた。

正保元年(1644年)の松平直基から元禄十三年(1700年)の松平忠雅の転封まで、五十七年間で大大名が交替し、さらに交替するたびに所領高が少なくなった。

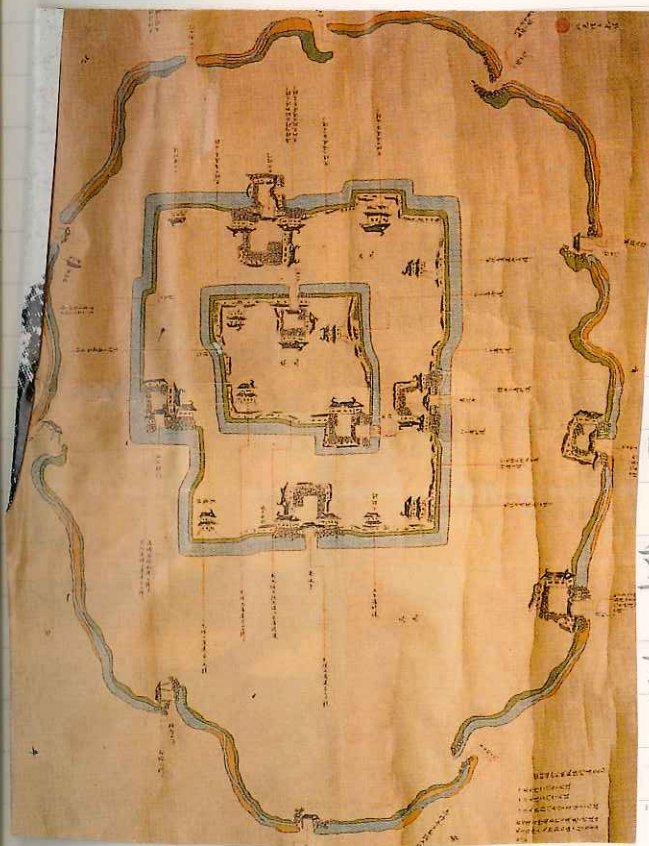
江戸時代後期になると堀田氏四十六年、秋元氏七十八年と長い期間在城し、民政を行い、領民にも親しまれたようであった。

明和元年(1765年)から約四年間の幕領時代には、三の丸内の建物等が取り壊され、山形城の規模が縮小された。

明和四年(1767年)に秋元氏が入部した時

には、本丸と二の丸があるのみで七十八年に及ぶ秋元氏も弘化二年(1845年)に転封、最後の山形城主水野氏が入部してきた。

封建社会はあらゆる面で行き詰まってきました。



昭和4年7月二の丸西南角の二重櫓付近の堀中から発見された
高さ76cmの鯨瓦

(市立第一小学校所蔵)

山形城修復絵図(明和6年)
(市立第一小学校所蔵)

3、明治時代の霞城公園

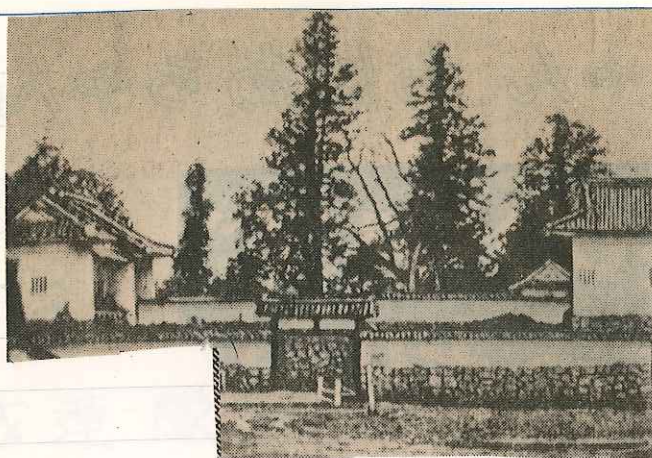
明治政府による山形県庁舎は初め、二の丸大手門前新御殿をあてた。

明治維新後、全国の城は大部分廃城とされ山形城内の建物も明治八年(1875年)ごろに取りこわされ三の丸の堀は埋められて畑にした。

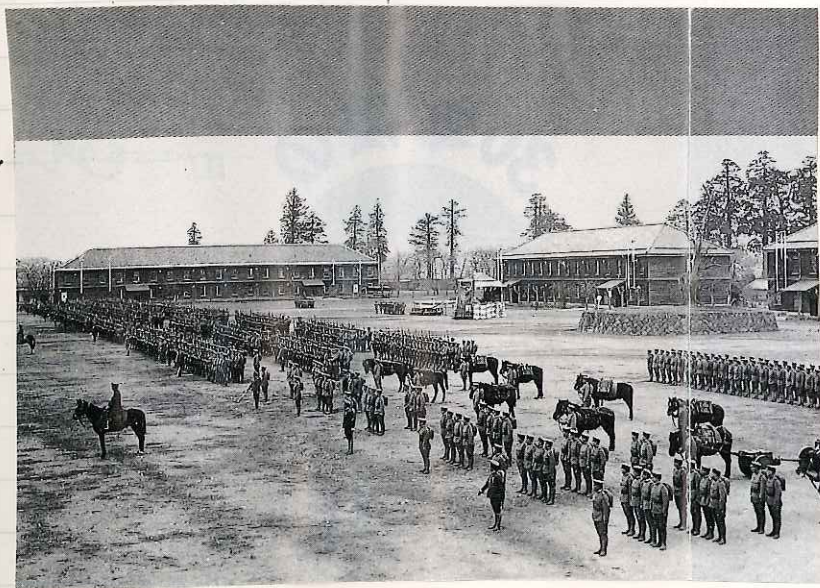
初代県令に三島通庸がなり三の丸の県庁舎を旅籠町の万日川原に新築移転、道路整備、済生館や山形師範学校の設置と次々に近代化政さくを進めていった。明治11年には陸軍省の用地となっていた旧山形城の一部を牧畜場や鮮明の小化場を二の丸に作った。

明治二十二年山形市が誕生し、二十九年

には市の発展のために雄倉市長らは
陸軍の歩兵連隊を置くことを考えました。
大部分が未利用の空き地となっている
旧山形城の本丸・二の丸を市が買い、国
に寄付して連隊の敷地にすることにした。
翌三十年、陸軍歩兵第三十二連隊が旧山
形城内に誕生した。



明治維新當時の二の丸大手門



歩兵第三十二連隊駐屯風景

(丸山写真館所蔵)

4、大正時代の霞城公園

陸軍歩兵第三十二連隊が誕生して明治・大正・昭和と半世紀以上にわたって“霞城連隊”と呼ばれ県民の軍隊が駐屯した。

現在市民を楽しませてくれる霞城公園の桜は、三十二連隊の将兵が植えたものである。

歴代の联隊長

初代・岩本貞英

二代・安村範雄

三代・森川武

四代・高山公通

五代・山本延身

六代・岡澤慶三郎

七代・柴豊彦

八代・大川盛行

九代・山田留太郎

十代・宮地太郎

十一代・倉茂三蔵

十二代・堀之内直

十三代・佐藤正三郎

十四代・田中清一

十五代・阿部規秀

十六代・山本源右工門

十七代・野地嘉平

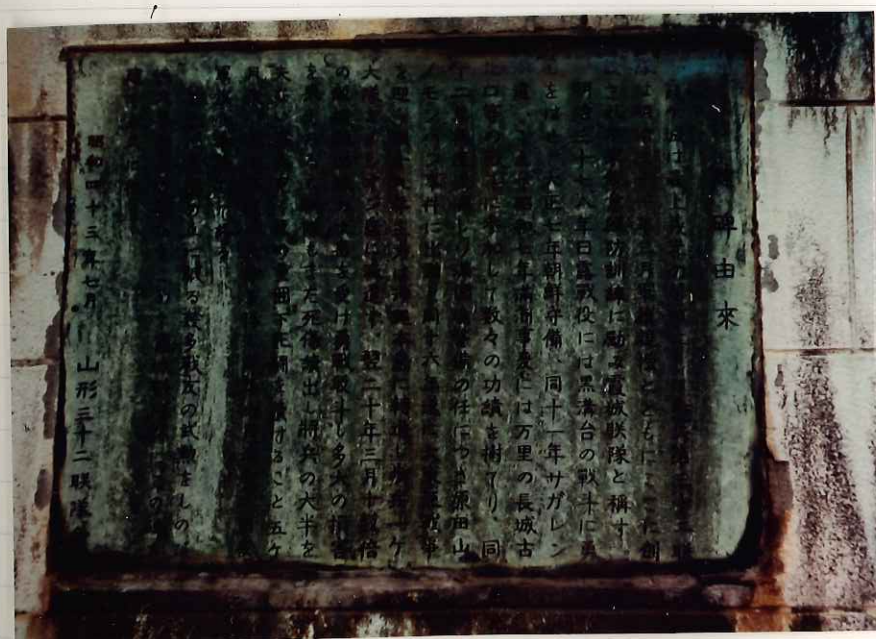
十八代・川村修

十九代・泉可畏翁

二十代・北郷格郎



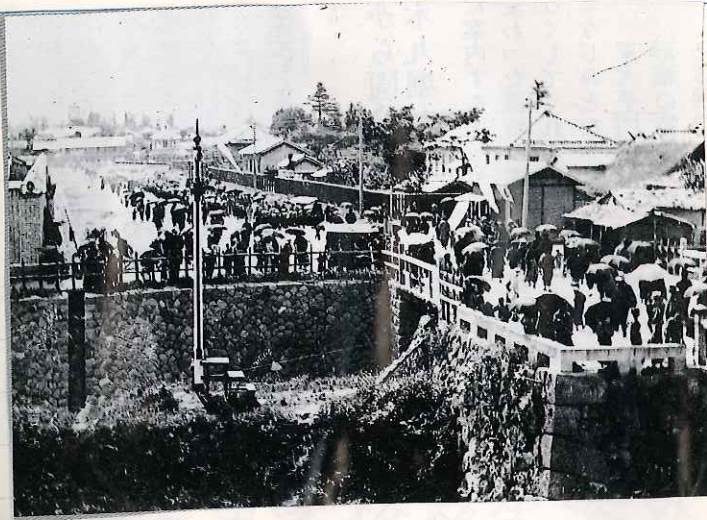
山形三十二聯隊会建之
 異国の丘に眠る
 戦友の武勲をしめし
 平和の願いをこめて昭
 和43年7月この碑を
 建てた。



5. 昭和初期の霞城公園(第二次世界大戦中)
歩兵三十二連隊には昭和の初めころから家族が
い間していた。

陸軍歩兵三十二連隊は明治、大正、昭和と
第二次世界大戦の終結まで続いた。

東大手門付近から昭和の初め頂遠くに
済生館が見えた。



昭和初めの頃遠くに渚生館が見える東大手門付近



昭和初めのころ歩兵三十二連隊の兵士に家族い問する風景。

6.戦後から現在までの霞城公園の移り変わり

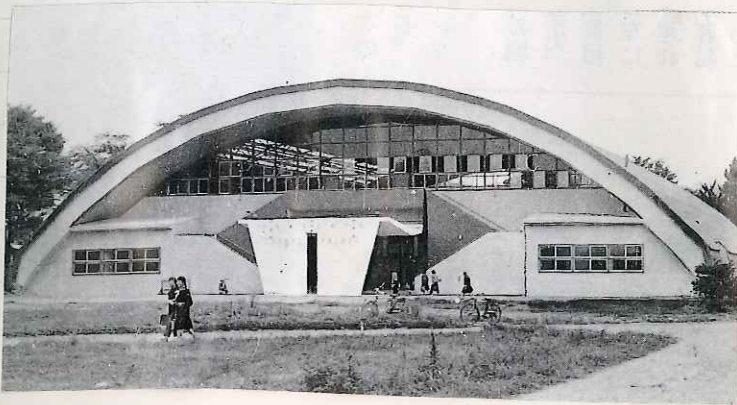
戦後軍の解体とともに旧兵舎はGHQに接收されたが、そのあと返され国で管理していた。市では新制中学校の発足にあたり旧兵舎を第二・第三中学校校舎、海外からの引揚者の宿舎、母子リょうにしようと思い昭和二十二年に有償で払い下げを受けた。

昭和二十四年には市営野球場、二十七年にはバレーボールやテニスコート、ソフトボール場などを造り旧兵舎をとりにわし旧山形城は緑地公園として市民に利用されるようになった。

昭和二十七年には、第七回国民体育大会の体操会場は県体育館で行なった。

昭和四十年代になると野球場を整備拡張し、弓道場や武道館、プール、県体育館と建設

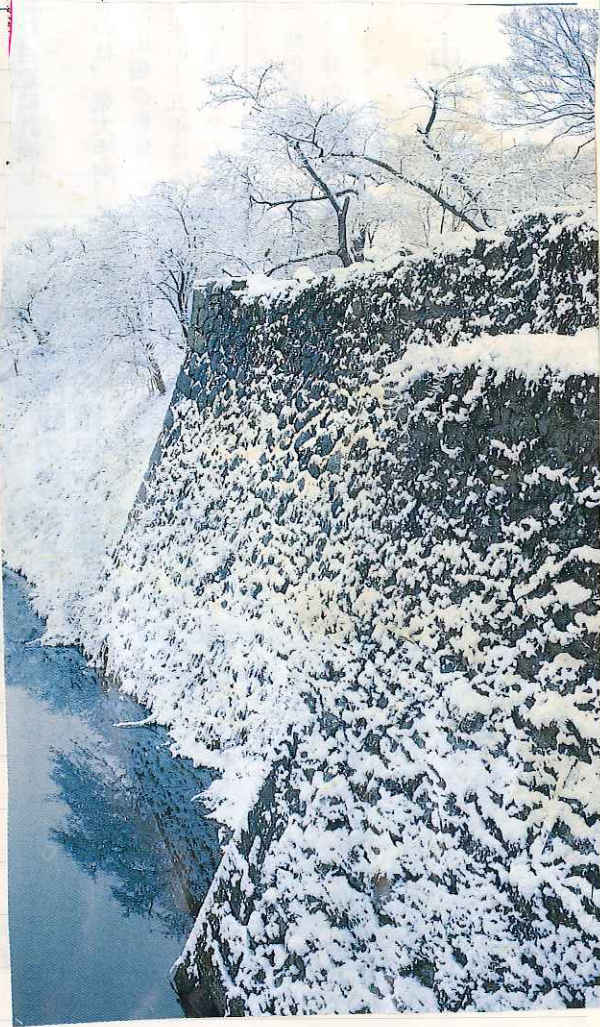
されスポーツ公園として生まれ変わり多くの市民に親しまれ利用されるようになった。



第七回国民体育大会(昭和27年)の体操会場となった
県体育館。



現在の霞城公園内の配置図



『霞城の冬景色』

厳寒にたえてきた石垣



やすらぎをあたえる霞城のお堀

7. 未来の霞城公園の姿

霞城公園整備計画は、三十年計画で最初に手がけるのは、東大手門の復元と東大手門広場の整備です。

前半の十五年は、古図の収集、本丸の発掘などの史実の調査や、森の広場の造成、植栽、石垣の修理などを計画しています。

後半の第二段階では、本丸の堀、土塁の造成と石垣の建設、本丸御殿の櫓門の復元、城内の整備などが計画されます。それぞれの広場や園路沿いへの植栽も計画的に行われます。

山形城跡としての性格が強調されるのが本丸ゾーンです。

本丸の堀と土塁は、明治二十九年(1896年)に、歩兵第三十二連隊の設置の際、こわされてしまいました。

た。本丸の復元は、出来る限り史実に近いように復元する計画です。

復元する時代は、城主が実際に本丸御殿に住み藩政を行い「城」として使っていた時代で現代に近い時代が望ましいのでその時代は堀田時代「1700年～1746年」です。

この時代の本丸と二の丸を復元し二の丸は現存しているので容易である。

本丸は正確な位置や形などが不明なので研究や発掘調査を待たなければなりません。

段階的には造園的手法で復元し最終的には史実に基づいて復元する計画です。

これからは重要な資料となる古図などの収集・研究も必要となります。

計画は次の三つを基本方針としています。

- ①山形市の中心的な都市公園とする。
- ②市民要望の強い静的な空間とすること(森林公園的イメージ)
- ③山形城跡として歴史を伝える文化財(史跡)とすること。

「憩い・やすらぎ」「コミュニティ・集い」「管理」「災害時の避難」「文化」「教育」「史跡」の七つを計画し、それによると本丸ゾーンと七つのゾーンからなっています。本丸ゾーンを中心に西側が休憩・観賞、東南部に多目的、東側に管理、北東部にサービス北側に歴史の各ゾーンが配置され周囲の土星は散さくゾーンとして整備される。

各ゾーンをつなぐ園路は主に市民の利用する園路と、文化財の見学・観賞を優先させた園路に大別されます。

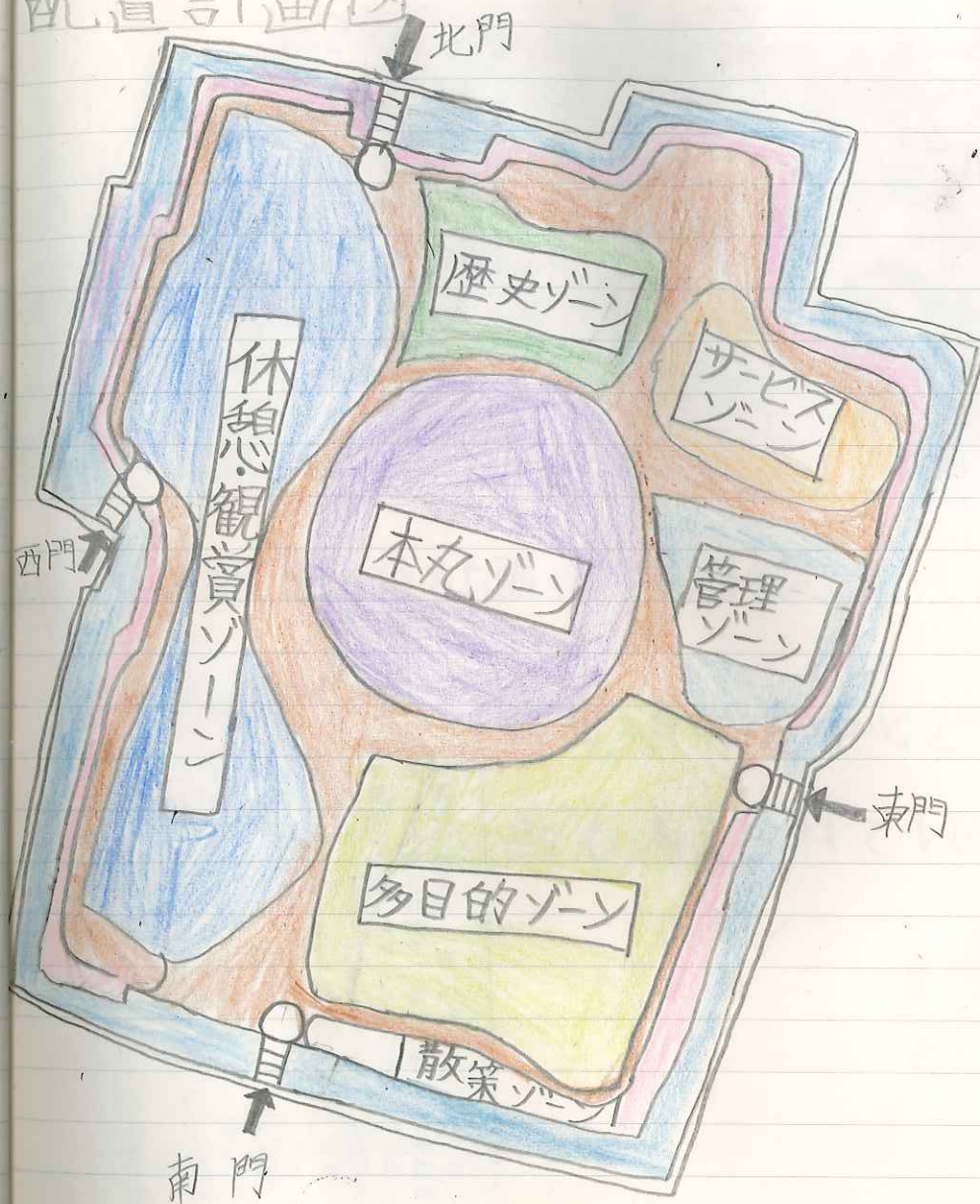
従歩を原則としますが自転車の利用も考えています。

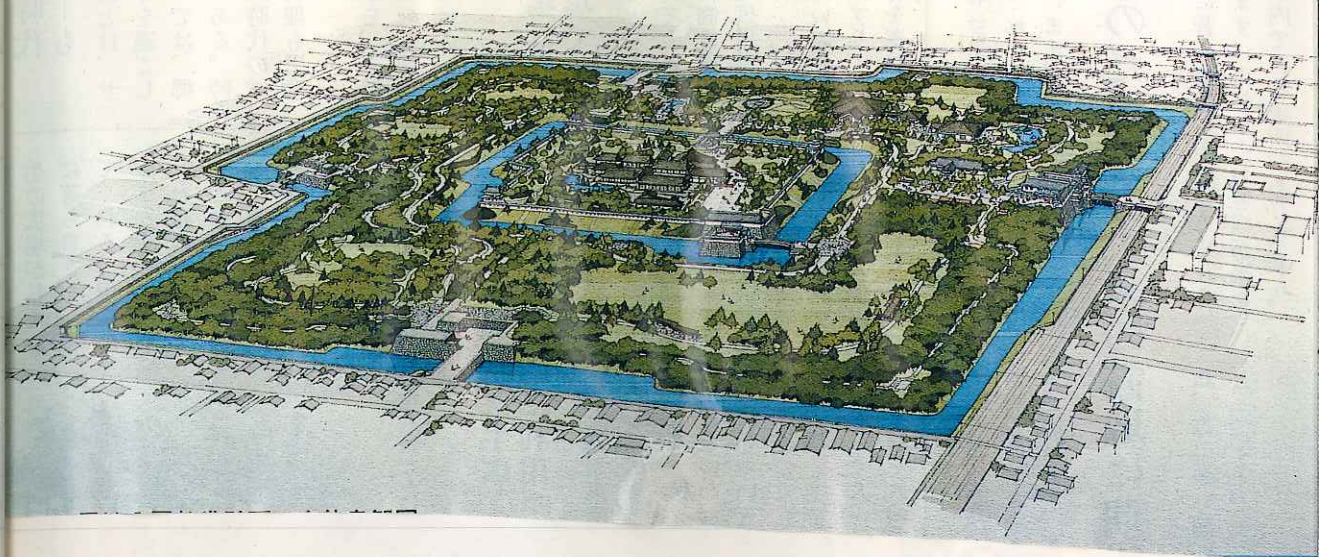
霞城公園は、生まれ変わろうとしています。

概算総額は130億円期間30年で基本設計
実施設計をして計画的に整備することになりました。

現在の施設の移転や水の確保などのいくつかの問題点も有ります。

配置計画図





霞城公園整備計画・全体鳥観図

有用植物

公園内の植栽は、「城」の古事にならって計画されます。昔は、戦争や籠城のとき、城内で自給自足の生活ができるように考えて、木を植えたといわれます。例えば：

- 食用になるもの…カキ、クリ、クルミ、アンズ、モモ
- 薬用になるもの…キハダ、ニガキ、クコ、ウメ、サンショウ、エンジュ、ハマナス
- 武具になるもの…ヤダケ、カマ

有用植物を中心とした植栽計画も考えられています。

ツカ、トネリコ

- 生活材となるもの…サイカチ（石けんの代用）
- 建材となるもの…スギ、ヒノキ、サクラ、モミ、クロマツ、ツガ、クスノキ、ケヤキ、ミズナラ、キリ、ヤマザクラ

などです。

今回の植栽計画でも、このような有用植物を中心に、各ゾーンの特徴に合わせて植栽します。

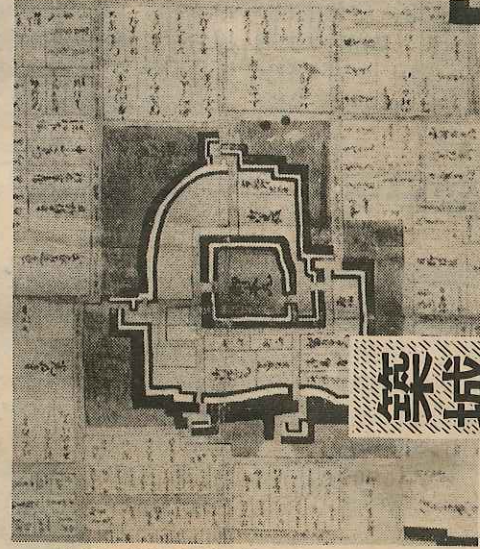
①生まれ変わる霞城公園シリーズ

①波乱の歴史と未来像を探る

生まれ変わる霞城公園

波乱の歴史と未来像探る

山形市民の心ぐくめる・霞城公園が、国の史跡指定を契機に大きく生まれ変わることをしている。山形城跡という歴史を尊重、遺構の復元を基本に名実とも市民の誇りの場になれり都市公園として整備するべく、いまもまっただ。ここはその正体。果たしてどんな「ニュー山形城」が誕生するの。築城から波乱に富んだ歴史を振り返りながら、公園の未来像を展望してみよう。



最上氏時代の山形城下絵図 県立図書館蔵

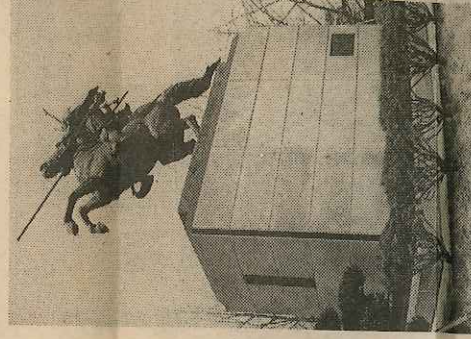
築城のころ 霞ヶ城沿革

堀と石垣が往時をしのばせ 二年（二三五七）のこと。前
る霞城公園。現在は市街地の 年 羽州探題として入国した
ほぼ中心部に位置するこの地 斯波兼頼がその創始とされ
に山形城が築かれたのは延文 天平年間（七二九一七四）
に山形城が築かれたのは延文 天平年間（七二九一七四）

全国屈指の平城

義光公 次々拡張、栄華誇る

力を最速し、室町幕府の勢力 城し、最上家を築いた。
を拡大する意を遂げたといわ 最上家五代義春から九代自
れる。山形とその周辺は古来 の義定まで、政治的な功績は
から開発が進み、出羽内郡の まったく不明のまま。しかし
中心地。最上郡の郡衙（ぐん 戦国時代、北進政策をとった
が）があり、「山方郷」とも 伊達氏の威威を受け、一時は
称した。最上城、あるいは山 大きく衰微したと伝えられ
形城の名の由来でもある。当 る。



最上義光公の銅像

（おのおのまひと）が最初 明確ではないが、現在、公園 は、市民に最もなじみ深い十
に築城したという説もある となっている二の丸程度の大 一代義光。義光は文禄五年（一
が、確証はない。 きざしはなかったかと推定さ 五九二）ころから山形城の拓
義春は、出羽国から南朝勢 れる。斯波氏は代々ここに居 張を行い、関ヶ原の戦いの功
で庄内一帯から秋田の田村郡 に及ぶ地を支配。美濃国石 張の功績を賞された。
の大領国を掌握した。 義光が築いた城は、壮大
なものだった。本丸は東西約 四四十三尺、南北約三十三
一尺、二の丸は東西約四四十四 一尺、南北約四七十四尺、
三の丸に至っては東西約四四 百八十尺、南北は千八百八十
一尺もあった。現在、このこ
大手町、香澄町、城角町、城 西町、城北町、旅籠町などを
覆う広さ。天守閣はないが、
平城としては日本有数の規模
だった。
関ヶ原の戦いの際、徳川方
についた最上家は、上杉家の
直江兼続に攻められた。兼続
が山形の西にひそむ戸（戸）
神山に登り、見渡したところ
山形城は霞（かすみ）に包ま
れ、見えなかった。このため
「霞ヶ城」とも呼ばれるよう
になったが、義光以後、全国
に名を轟かせた霞城の森
も荒廃の一途をたどることに
なっている。山形が霞城の
名を失ったのは、このころ
からである。

②荒廃のまま近代へ

生まれ変わる 霞城公園



昭和十四年、二の丸西南角の二重櫓付近の堀の中から発掘された魍魎(しやちほ)がわら。山形一小所蔵

②

最上家は義光の時代に黄金期を迎え、山形城は幕藩体制の下で、東北の外様大名を監視、けん制する上で重きをなした。しかし慶長十九年(一六一四)、義光が病死後、没落の一途をたどる。

徳川家康の家来となった二男 義親、豊臣家に引き起し、義親は自害、家親も元和三年(一六一七)に歿する。十二歳で家督

三の丸は田畑に 義光公没後、相次ぐ改易

仕えた三男家親が対立。大坂の陣を契機に両派の抗争

を継いだ家信は、重臣たちを継いだ家信は、重臣たちの派閥争いを治められず、和元年(一七六四)、山形同八年、家中不取り締まりにより所領を没収され、一城は幕領に加えられ、城内は万石に減封されて近江大森に改易、最上家は崩壊した。同四年に入城した秋元源朝が、二の丸東大手門

四万石で入封、元和九年に前に新御殿を構え、城内を

荒廃のまま近代へ

霞ヶ城
沿革

は山形城を改修したと伝え修復したが、百万石を誇られていた。正保年間、幕府が諸大名に命じて作らせた「正保城絵図」は、この改築の姿を示すといわれた。最上氏時代とは畑や土塁の形、門の位置など大きく変わった。島居氏以降、領主の改易が頻繁に行われ、山形城も

形卑の所管となり、霞ヶ城を取り巻く環境は大きく変

- 33 -

④整備への足取り

記念事業の目玉に 市制90周年 ロマン込め壮大な計画

跡にぞわい公園に整備し、山形市の象徴的な総合公園とすることが提言された。

五十六年に市の第四次総合計画を策定した際、基本計画の中に公園整備が組み入れられた。この時から、具体的な項目は、公園整備基本計画の策定、東大手門の建設推進、野球場などの施設、石垣修復などの四つ。さらに翌五十七年には

山形市東大手門の復元は、全体計画よりひと足先に進んでいた。東大手門の復元計画は、調査と設計、建設と整備の順に進められた。調査は、平井重雄教授に調査を委託、五十六年には「復元可能」との結論が下された。国の補助を受ける都合から、調査は一年繰り延べになったが、六十二年には事業着手の運びとなった。

これらの経過を踏まえ、公園整備は決定的にした。山形市東大手門の復元は、調査と設計、建設と整備の順に進められた。調査は、平井重雄教授に調査を委託、五十六年には「復元可能」との結論が下された。国の補助を受ける都合から、調査は一年繰り延べになったが、六十二年には事業着手の運びとなった。

整備への足取り

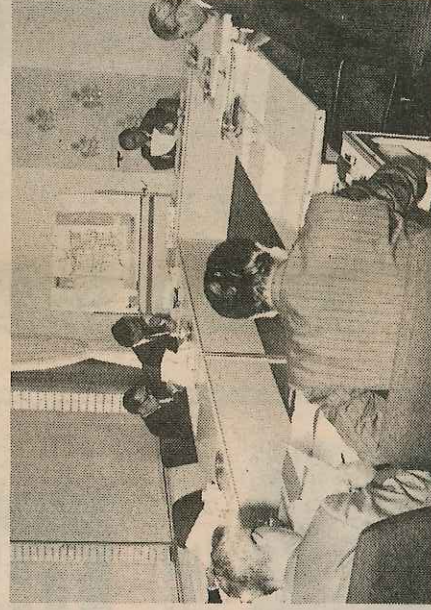
「山形市都市計画区域線は、国史跡指定ラウ。文のマスタープランが作られ、市のシンボル・霞城公園を森林公園的に形成し、総合公園として整備する」という目標、五十八年夏に史跡指定の申請を打診してきた。

市はこれを受け、学識経験者や市関係者で霞城公園整備計画策定の検討会議に進んだ。昨年度に基本プランをまとめた。そしてこの三月、国の文化財保護審議会は山形城跡を史跡に指定するよう文部大臣に答申、三十年掛かりの壮大な公園整備が本格的に動き出すことになった。

生まれ変わる 霞城公園

.....④

今、なぞ霞城公園の整備かという声もある。そもそもうろくが持ち上がったのは五十四年。この年、山形市が市制施行九十周年を迎えた。その記念事業の一つとして「史跡・霞城



霞城公園整備の全体計画をまとめた検討会議

⑤史実踏まえ復元計画

生まれ変わる 霞城公園

.....⑤

堀や土塁を合わせて三十三、切っていたのは堀田正虎。降のもの。これらのことを、五つの霞城公園。整備計画を検討する上で、遺構の保存と復元の程度が問題になった。現在確認できるのは、三の丸土塁の二と二の丸の堀、土塁、四方の門の石垣だけ。まず復元の時代設定をどこに置くか。

堀田氏時代を再び

石垣 古絵図を手掛かりに

史実踏まえ復元計画

一般的に城が機能してい、東大手門の復元は、現存する最終時代の状態にする。これは、石垣を新用する。これは、三の丸まで復元するとは、不可能に近い。さまざまな

も適切と判断された。次に整備区域をどこで線引するか。現在、二の丸と堀の外側は商店や住宅が密集、市街地を形成している。このような状況の中で、三の丸まで復元するとは、問題を本丸。最終的には

基本方針として二の丸は東西の堀、土塁を当時のように復元、東大手門も現行計画で建設し、西と南北の三門については石垣を櫓形（ますかた）に修復する。うを纏っている。

外周となる堀、土塁、石垣、門（櫓）の復元は、一般的に本丸側をすべて復元する計画だが、遺構もあまり残っていない。現在のままとして、石垣を新用している。

変遷があったが、当時の二の丸堀外周は現在の公園区域とほぼ等しいことが推定される。このため、整備対象区域は今の都市公園の範囲内に収まった。

現在の公園がどのような姿に生まれ変わるか
市民も注目している

-35-

生まれ変わる 霞城公園

⑦

霞城公園の整備 復元に
真っ先に手掛けるのが二の
丸東大手門。市制九十周年
記念事業の一つとして、ひ
と足先に復元することを決
めていた。城郭研究の権威

◇東大手門の設計概要
中央の櫓門は、本かわら
ぶき入り母屋造りで、建坪
は二百六十平方尺。間口三
一・五尺、奥行八・一尺。
高さが十二・八尺。南に続
く続櫓は、間口十八・九尺、
奥行六・二尺で高さが七
・三尺。北櫓も入り母屋造
りで、間口二〇・三尺、奥
行き六・二尺。また、堀に
架かる橋を渡った高麗門
(こつらいもん)は、本か
わらぶき切り妻造りで間口
五・六尺、棟高七・三尺。
堀に面した同門のわき塀
は、延長四十四・九尺で高
さ二・六尺。櫓門と北櫓を
結ぶ枳形部の土塀は延長四
十六・七尺。

東大手門は、霞城公園の家(同市十日町二丁目)に
東口にあった。現在は、枳
残る平面図で復元できる
と結論を下した。

一番手は東大手門

来年度着手 櫓式の設計完成

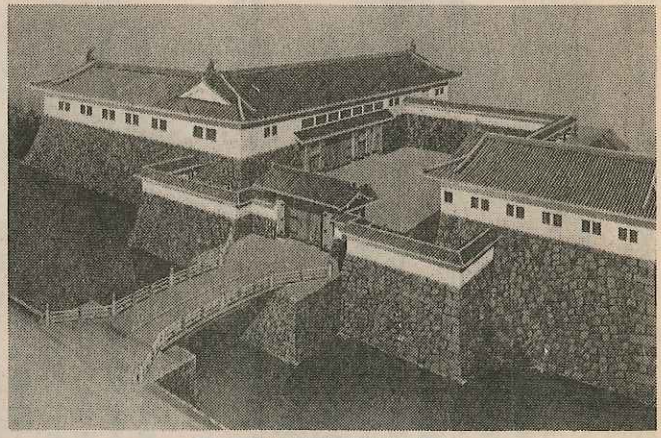
復元プランの柱

である東京工大の平井聖教
授の調査を踏まえ、既に基
本設計が出来上がり、来年
度の着工を待つだけとなっ
ている。

「現存する石垣と、山形藩
御用大工と伝えられる粕川
平井教授の調査報告書に
よると、東大手門は正面が
高麗門(こつらいもん)で、
くべると石垣で囲まれた枳
形(正方形)の空間がある。
その南面は東西の櫓(やぐ
ら)に渡り櫓を架けその下
に門を設けていた。しかし
石垣と、建築に伴う庭園改

る「正保城絵図」によると、
本来は渡り櫓の形式ではな
く、旧江戸城田安門などと
同じ櫓門だったと推定され
るため、復元の基本設計で
は後者を採った。

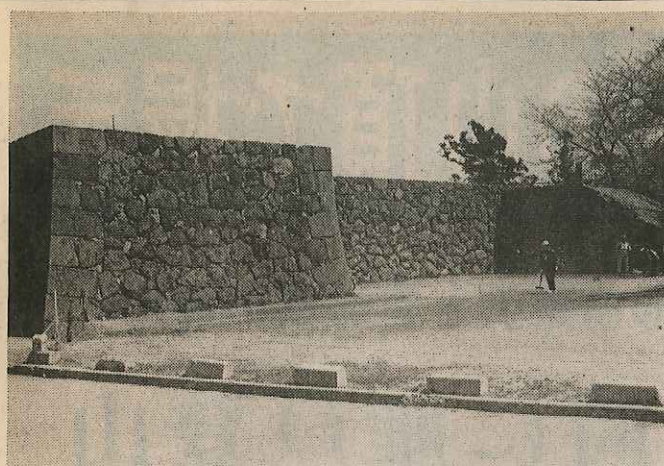
総工費は建物だけで七億
円。新たに積む枳形の西側
成は遅らせない」というの
が市の基本的な考えだ。



東大手門の復元完成予想図

⑦ 整備復元プランの柱

⑧ 城跡改修の足跡



修復された北門の石垣

生まれ変わる 霞城公園

.....⑧

霞城公園はこれまでも、段階的に整備の手が加えられてきた。公園内の各種施設配置や造園的整備を除き、史跡に関連した補修、修復は、去

る二十六、二十七年の北門、東大手門の入り口付近が手始め、二十

九年には西門の石積みを行

城跡改修の足跡

い、三十二年は南大手門を手掛けた。戦前まで、荒れ七千円を投じて湛水た

る一方だった城跡が、市民の憩いの場に生まれ変わる。六年秋に水が張られた。また、土

進む堀、石垣修復

歴史を刻む貴重な遺産

条件が次第に整い出す。公園内に城があった、とひと目で分かるのは天守閣や櫓（やぐら）、門などの建築物。しかし山形城の場合、いすれも残っていない。このため、石垣と堀が往時をしのぶ貴重な遺産となっ

ている。



中には刻印のある石もある

今は満々と水をたたえ、市民の集う水辺となった西堀は、ほんの数年前までは、まだ数回にわたって行われ、四十にわたって見つかった。

五十四年、

市営球場に照明灯を設置するため発掘調査が行われた。照明鉄塔

た。最近では五十四年、南の建設場所、鉄塔をめぐ

側の石垣を補修、五十八年、一フル線埋設部を四、五

には北門の修復工事を実施、四方、深さ二、四にわた

した。樹木の圧力などで少り掘り下げたところ、三

しずく石のつながりが緩み、側の内野スタンド内から旧

本丸の土塁と堀の状態が推

いたこともある。この時、

大量のかわらが出土

公園の北門で
屋台を営む江



中には刻印のある石もある

この修復はこれとみられる石の列が約
たって行われ 四十にわたって見つかっ
た。

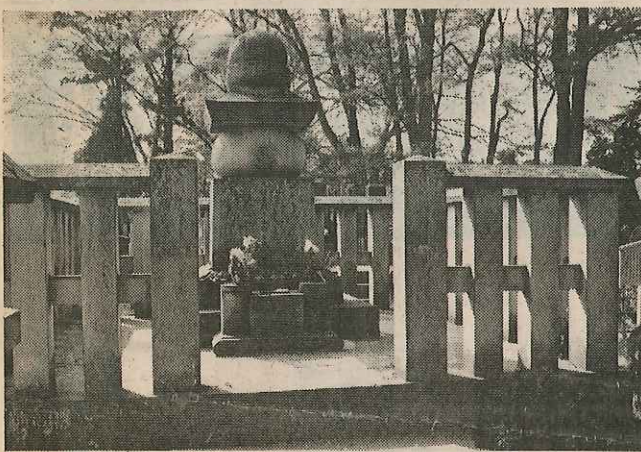
修復

重要な遺産

五十四年、市の建設場所、鉄塔をめぐり、
五十八年、一ブル線埋設部を四、五
復工事を実施 四方、深さ二四にわた
圧力など少り掘り下げたところ、三
ながら緩み 側の内野スタンド内から旧
危険が生じて 本丸の土塁と堀の状態が推
察される。この時、

五十四年、市の建設場所、鉄塔をめぐり、
五十八年、一ブル線埋設部を四、五
復工事を実施 四方、深さ二四にわた
圧力など少り掘り下げたところ、三
ながら緩み 側の内野スタンド内から旧
危険が生じて 本丸の土塁と堀の状態が推
察される。この時、

①思い出と期待



市内の光禅寺にある義光公の墓

生まれ変わる

霞城公園

霞城の桜も散り、新緑の (ひんそつ) も去り、いつ
季節を迎えた。花見客でに ものたすまいを取り戻し
ざわったひとりの喧噪 つつある。山形城、霞城公

霞城の歴史は、ある意味で六
百年を超える近世から現代
への山形の歴史そのものだ
ったのかもしれない。そこ
には懐かしい思い出があり、
未来の霞城の森に対する
期待もある。

壮大な平城を築き、現在
の山形の基礎を形造ったと
いう点で、最上義光の存在
を抜きにしては語れない。

義光公は今、光禅寺(鉄砲
町)に静かに眠る。毎年十
月十八日には、義光公の追
悼法要が開かれ、大勢の人
が遺徳をしのぶ。

「戦国の世を生き抜き、
殺伐とした戦いや血なまぐ
さいお家騒動などがとく

思い出と期待

功績多い東北の雄

屋台、食用ガエル さて30年後は…

強調されがちだが、山形の
政治、経済、文化に果たし



公園の北門で
屋台を営む江
口さん

民に開放され
たものです。
お堀には食用
ガエルがい
て、クオン
という鳴き声
が私の家まで
よく聞こえ
たと振り返
る。

戦前、戦後

語るの、光禅寺の最上頭を通じて、霞城の森の変遷
一住職、公園の整備計画を目の当たりにしてきた江
口さん。西堀で水泳に興じ
る子供たちの姿をよく見か
けたという。「商いをやっ
ていたため、公園内のスポ
ーツ施設を利用する人が大
きなお得意さん。公園が変
わるといって、将来、私
たちはここで商売ができな
くなるでしょうね。もっ
とも三十年後には私は新し
い公園を見ることはできな
いだろうが、一筆を遺すこ
とで、後世に伝えておきたい」

霞城公園には、近い城北
町二丁目の江口重次郎さん
が、は、戦後間もないころ
から公園で露店を開き、現
在も北門付近でお好み焼き
の屋台を出す。「三十二連
隊があったころは毎年四月
下旬に軍旗が掲げられ、市



中には刻印のある石もある

この修復はこれとみられる石の列が約
たつて行われ 四十にわたつて見つかつた。

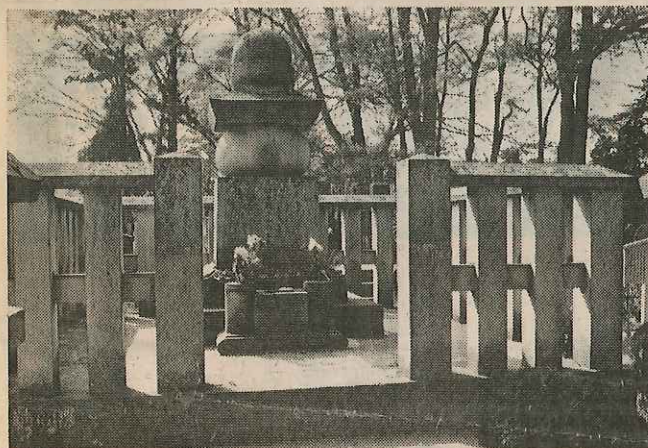
修復

重要な遺産

五十四年、南の建設場所、鉄塔を継ぐ
修、五十八年、フル線埋設部を四、五
復工事を実施、四方、深さ二四にわた
り掘り下げたところ、三墓
ながら緩み、側の内野スタンド内から旧
危険が生じて、本丸の土塁と堀の状態が推
察される遺構が推定された。

この時、
「
」

①思い出と期待



市内の光禅寺にある義光公の墓

生まれ変わる 霞城公園

霞城の桜も散り、新緑の（けんそつ）も去り、いつ
季節を迎えた。花見客でにものたたまを取り戻し
ざわったひとりの喧噪、つつある。山形城、霞城公

園の歴史は、ある意味で六
百年を超える近世から現代
への山形の歴史そのものだ
ったのかもしれない。そこ
には懐かしい思い出があり、
未来の霞城の森に対す
る期待もある。

壮大な平城を築き、現在
の山形の基礎を形造つたと
いつ点で、最上義光の存在
を抜きにしては語れない。

義光公は今、光禅寺（鉄砲
町）に静かに眠る。毎年十
月十八日には、義光公の追
悼法要が開かれ、大勢の人
が遺徳をしのぶ。

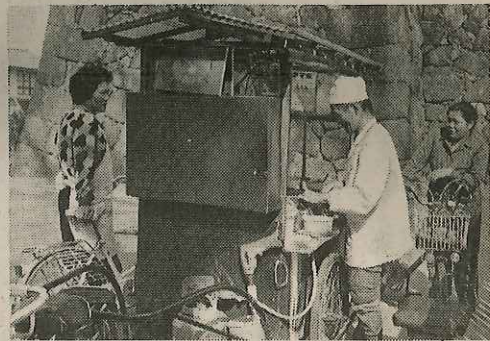
「戦国の世を生き抜き、
殺伐とした戦いや血なまぐ
さいお家騒動などがとく

思い出と期待

功績多い東北の雄

屋台、食用ガエル さて30年後は…

強調されがちだが、山形の
政治、経済、文化に果たし



公園の北門で
屋台を営む江
口さん

民に開放され
たものです。
お堀には食用
ガエルがいてクオン
という鳴き声
が私の家まで
よく聞こえ
た」と振り返
る。

戦前、戦後

語るの、光禅寺の最上願
一住職。公園の整備計画に
ついては「大変に素晴らしい
ことだ。伊達氏と並んで
東北の雄を競つた山形の姿
を再び、再現してほしい」と
期待する。

霞城公園にほど近い城北
町一丁目の江口重次郎さん
は、戦後間もないころ
から公園で露店を開き、現
在も北門付近でお好み焼き
の屋台を出す。「三十二連
隊があつたころは毎年四月
下旬に軍旗が月か、市

「一は一本格的に、と理解

9. 国の史跡指定になる、三の丸跡

三の丸跡は長さ約50M幅約25M高さ5.4Mの土塁と水のなくなった堀で広さは2389M²で県指定文化財となっている。現在では、史跡全体が歌かけ稲荷神社と一部個人の所有地で周囲には住宅やビルがびっしり建っている。

三の丸跡も保存へ

霞城公園 国の史跡指定 十月に結論

歌懸稲荷神社周辺 市教委、急ぎ対応策

霞城公園・山形城跡は国の一部分だけとはいえ、三の丸文化財保護審議会から答申を文化財保護審議会から答申を受けたことにより、国指定史跡となる見通しだが、最終決定の文部大臣公示が延び延びになっている。関連史跡の山形城三の丸跡（十日町の歌懸稲荷神社のある場所）の取り扱いは検討課題となっており、結論は今年十月ごろになりそうだ。

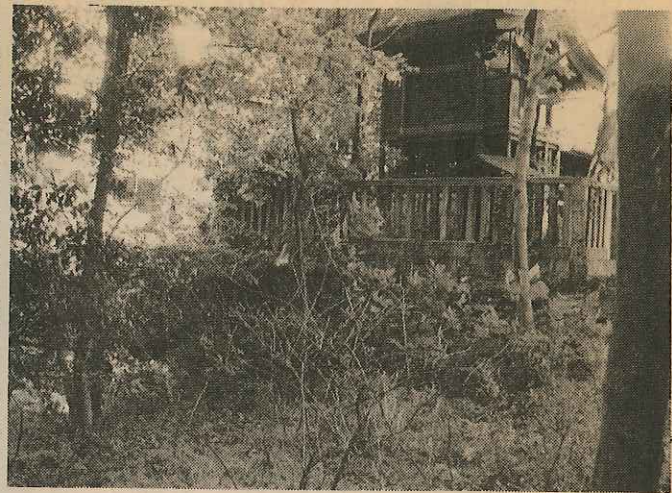
山形城跡の史跡指定そのものについては、文化庁側は全く問題なしとしているが、

三の丸跡は、長さ約50M、幅約25M、高さ5.4Mの土塁と水のなくなった堀で、広さは三千三百八十九平方メートル。国指定文化財となっており、県指定文化財となっている。国指定を受けるためには、管理主体の市教委が保存計画を練り直し、文部省に申請しなくてはならない。問題は、この保存計画。現状維持で手門復元工事の計画があり、

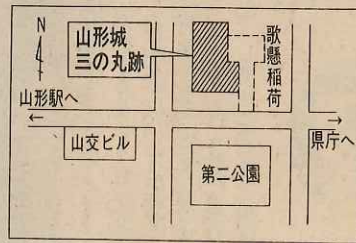
国指定の最終決定があり次第、すぐにも着手したいところ。三の丸の指定問題と切り離して山形城跡の指定公示をする用意もある」と文化庁側。しかし、その前段として市教委の調査、検討を待ち、調整を図りたいとしている。



ビルの陰にある三の丸跡の史跡に気づく人は少ない



三の丸十日町口の土塁跡
(歌かけ稲荷神社境内)



三の丸跡、袋小路にひっそり 見学しようにも…

市と県 整備方法など検討

県指定史跡となっている山形市の山形城三の丸跡（十日町）の保存と整備方法をめぐり、市と県の検討が重ねられている。袋小路の形になつていて、市民や観光客が自由に見学できるよう波兼頼が築いたと伝えられて

いる。十一代最上義光の時代に隆盛期を迎え、三の丸は東西約千八百八十、南北約千八百八十の規模があった。内側には藩士の住居、外側に農工商の城下町が広がり、計十一カ所の門（出入り口）が設けられていた。現存しているのは、十日町口の一部ただ一カ所。長さ約五十、幅約二十五の土塁と堀跡で、広さは二千三百八十九平方。昭和二十八年に県指定文化財となっている。

現状保存でこれまでだが、史跡全体が歌懸稲荷神社と二部個人の所有地で、周囲には住宅やビルがびっしり。

感想(研究をやっての)

現在の霞城公園になるまでには、大勢の人達の努力と力が有り特に昔の武士達は城を守るため命がけで戦って来て大変だ。たと思う。資料や新聞を見てもむずかしい漢字がたくさんあって大変でした。未来の霞城公園もきっとすばらしい物になると思います。

反省(研究をやっての)

山形城時代の様子をもっとくわしく資料も、もっとあつめたかた、図書館に行っても山形城の資料は、あまりなかった。

参考資料

山形広報特集霞城公園より

山形新聞より

山形県史より

協力者

お母さん・会田先生

研究のまとめ

霞城公園は県民、市民、観光客にとって大きな存在となる公園になる事を期待しています。

未来の霞城公園は山形県の名所になる事と思います。